

1185

戦
月
資
料
一

軍
當
面

敵

情

目次

- 第一 全般概況
- 第二 蔣系軍ノ状況
- 第三 共産軍ノ状況
- 第四 國共關係
- 第五 西北状況

敵情

第一 全般概要

重慶一般ノ動向ハ世界戰局ニ於ケル聯合國ノ頽勢ヲ反映シテ低調ナリ中支ニ於ケルセ號作戰當面ノ敵軍動向低調ナルノミナラス各戰區各方面ニ於テ軍事動向ノ認ムヘキモノナシ

七月中稍活潑ニ航空激撃ヲ發動シアリシ在支米空軍モ七月末ヨリ八月初頭ニ亘ル我航空擊滅戰後ハ西南奧地ニ遁入シテ八月中僅カニ廣東星房ニ各一回神系戰的來襲ヲナラシタルニ過キス

重慶ハ國內外ノ戰況極メテ緊張シアルト國際情勢冷靜ニ注視ヲ要ストノ理由ニ依リ十中全會ヲ秋末或ハ冬初ニ延期セルカ國內外ノ戰況トハ中支方面ニ於ケルセ號作戰及獨蘇戰ノ異常ナル發展ヲ指シ國際情勢トハ日蘇ノ衝突印度問題ノ動向第二戰線ノ成否等ニシテ重慶ノ戰爭指導ノ他力依存性ヲ物語ルモノナルヘシ

而シテ重慶ハ日蘇問題ニ關シテハ専ラ其ノ衝突必至ヲ希望的ニ豫測シ印

度問題ニ關シテハ英印兩者ノ間ニ立チテ極メテ困難ナル立場ヲ糊塗セント
 ト努メ第二戰線問題ニ關シテハ歐洲第二戰線ニ反對セサルモ太平洋或ハ
 支那戰區ノ重要性ヲ強調シ援蔣強化ノ要求ニ之努メアリ
 前月來重慶ノ最モ顯著ナル動向ハ西北問題ニシテ八月申蔣介石ハ前後二
 回ニ亘リ西北ニ飛行シ自ラ其ノ處理ニ當ルト共ニ白崇禧張維翰等要人
 ヲ逐次派遣シ西北問題ノ進展ニ努メツ、アリ
 重慶ノ西北強化ニ伴ヒ八月第十戰區ヲ再建セルモノ、如シ
 共産黨軍ハ積極的ニハ我華北建設時ニ中國側近組織軍隊ヲ破壊シ消極的
 ニハ對蘇戰發動ノ危険性アル日本軍ヲ牽制シ且愈困難化スル自黨自軍ノ
 窮狀ヲ打破セントシ七、七紀念日以降二ヶ月間政治攻勢ヲ強力ニ發動セ
 リ其ノ手段ハ專ラ思想宣傳ニ依リ我軍民ニ反響宣傳ヲ行ヒ中國軍官民ニ
 對シテハ抗日意識ヲ扶植シ之ヲ爭取セントスルモノニシテ八月中共黨
 軍ノ宣傳ハ極メテ活潑化シ我軍民ニ對スル各種反戰壓戰宣傳ヲ始メ世界
 戰況ヲ歪曲シテ樞軸陣營ノ必敗ヲ宣傳シ新中國側軍官民ノ我ニ對スル離

反ヲ策スルト共ニ警備力薄弱ナル新中國軍勢ノ小據點ニ謀略襲撃ヲナシ
 之ヲ拉致スルノ策ニ出テ月中十數件ノ被害ヲ見ルニ致レリ
 因共關係ハ米蔭ノ斡旋ニ依リ整調努力ヲ拂ハレ暫定的妥協狀態ニ達シアル
 モノ、如シ
 然レ共現地相剋ハ依然執拗活潑ナリ

第二 蔣系軍ノ狀況

一 第一戰區

我進攻ヲ警戒シテ河防ヲ嚴ニシツ、整訓ニ惠念シアルモノ、如ク其ノ
 動向低調ニシテ變化ナシ

二 第二戰區

我力嚴重ナル封鎖ニヨリ益々食糧難ニ陥リ征糧工作ニ惠念シアリ

三 第八戰區

第八戰區ハ第十戰區ノ再建分離ニ依リ一見其ノ兵力及戰區ノ地位ヲ著シク低下シタルカ如キモ西北「ルート」ノ中央軍ニ依ル軍事の支配強化ヲ始メ重慶ノ西北開發ノ推進力タル任務ヲ担當シテ其ノ動向注視ヲ要スルモノアリ

即チ西北「ルート」上ヨリ放逐セル回教軍ヲ以テ青海省ニ一般的勢力圏ヲ擴張スルト共ニ西北「ルート」上ニハ逐次中央軍ヲ進駐セシメツ、其ノ勢力更ニ新疆方面ニモ伸張セントスルモノ、如シ

蒙疆當面ノ傳作辭軍ノ動向依然消極的ナリ

四 第十戰區

五月來再建準備中ノ第十戰區ハ蔣介石ヲ長官トシ胡宗南ヲ副長官トシテ豫定ノ如ク八月成立ヲ見タルモノ、如シ

第十戰區ノ再建ハ重慶ノ西北工作ニ直接關聯ヲ有スルト共ニ我軍ノ進

攻ヲ恐アル重慶ノ國中防備強化策ナルカ如シ

五 魯 戰 區

八月初頭師長常恩多病死スルヤ^{111D}ハ突如兵變ヲ起シ于學忠總部ヲ包圍シ^{111D}チ四ヶ師ニ擴編スル如ク要求セリ

于學忠ハ身ヲ以テ難ヲ逃レ^{51A}ノ駐地ニ移動セントセルカ我軍ノ追及ス

ル所トナリ月末我包圍攻撃ヲ受ケテ于ハ負傷シ高級幕僚ハ捕獲セラレ致命的損害ヲ蒙リタリ

^{111D}ノ兵變ハ^{57A}解消後ノ不遇ニ不滿ヲ有シアル同師ニ共産軍ノ使曠ノ魔

手延ヒテ突發的兵變トナレルモノニシテ兵變不成功ニ終ルヤ一部ハ共産軍ニ合流セルモ主力ハ于學忠軍ニ歸順セルモノ、如シ如斯シテ山東

蔣系軍ハ自軍ノ内紛國共相剋我軍ノ掃蕩ニ愈々衰亡ノ一途ヲ辿リツ、

アリ

六 冀 察 戰 區

變化ナシ

第三 共產軍ノ狀況

一 晉察冀邊區

冀中軍區ハ我三號作戰後余ク潜伏シアリテ其ノ主力部隊ハ冀西ニ遁入シテ整訓ニ専念シアリ冀西亦我軍ノ進攻ニ阻々競々トシツ、根據地強化ニ腐心シアリテ我ニ對スル蠢動早ルヘキモノナシ

僅カニ冀東ニ於テ原田兵團ノ一號作戰ニ對抗シ其ノ間隙ニ乘スル蠢動ヲ示シツ、アルト全般的ニ新中國軍警ヲ目標トスル小襲撃ヲ散發セシメタリ

二 晉冀魯豫邊區

大行、冀南兩軍區ハ我掃蕩後ノ根據地再建ニ餘念ナク大岳、中條兩軍區ニ於テ山西軍及殘存重慶勢力ヲ驅逐シツ、其ノ勢力擴大ニ努メツ、アリ

三 山東共產軍

政治攻勢ニ於ケル宣傳上ノ活動相當活潑ナルモ具體的蠢動殆ント無ク

干學忠軍トノ相刺ニ寧日ナキ状態ナリ

魯西共產軍ハ蔣介石ノ命ニ依ル李仙州ノ掃蕩ヲ受ケアルガ如シ

四 晋西北軍區

變化ナシ

五 陝甘寧邊區

國共接讓地區ニ於テ鴉片ノ栽培ヲ巡リ相刺ヲ繼續シアル外大ナル變化ナシ

第四 國 共 關 係

米蘇合作ノ西北軍事建設案ノ前提條件トシテ七月末國共關係調整ヲ促進スル爲メ米蘇兩大使館ヨリ代表團ヲ延安ニ派遣シテ其ノ衝突ニ當ラシメタルカ如ク國共整調ニ關シテハ「ラチモア」案ニ基キ米國ノ「イニシアテイブ」三依リ暫定的妥協ニ關スル努力カ拂ハレツ、アルモノ、如シ

而シテ中央ニ於ケル斯ル努力ハ概ネ時期ノ目的ヲ達シタルカ如キモ現地

ニ於テハ山東、晉南、蘇北、長江流域等凡ソ國共兩軍ノ存在スル所醜惡ニシテ執拗ナル相刺ノ反復ヲ見ツ、アリ
 蔣介石カ現地部隊ニ對シ剿匪ノ督勵ト其ノ奮績ヲ求メツ、アルト中共カ三風運動以降表面的ニハ對重慶接近態度ヲ持シアルニモ拘ハラス重慶ノ對共警戒嚴重ナルモノアルハ注目スヘキ動向ナリ

第五 西北 狀況

七月以降重慶ノ西北工作ハ愈活潑化シ蔣介石ハ八月上旬末迪化ニ飛行シ月末再々蘭州、嘉峪關、西寧等ノ各地ニ飛來シタルモノ、如シ
 其ノ他重要人ノ西北往來ノ頻繁ナル左ノ如シ

第八戰區長官朱紹良八月末迪化_二滞在シアリテ西北ル_一トニ對スル重慶ノ軍事の進出ニ關シ工作シアルカ如シ
 空軍總指揮毛邦初ハ朱ト同行シアリテ西北空路問題及空軍問題ヲ處理シアルカ如シ

副総参謀長白崇禧ハ八月末西寧ニ在リテ回教問題ニ關スル處理ニ任セ
ルカ如シ

國民黨々務委員梁寒操ハ八月末新疆省ニ到リ黨務ニ關スル任務ヲ遂行
シアルカ如シ

内部政務次長張維翰ハ七月中旬以降長期ニ亘リ西北各省新縣政運動ヲ
視察シアリ

中央軍ノ西北ル¹ト進駐ハ²ノ³旧駐地ニ進駐セル外⁴主力及⁵等ノ⁶
進駐ヲモ見タルモ、如ク蔣介石ハ莫ニ西寧附近ニ在ル馬步芳軍ヲ青

海南部ニ移駐セシメント劃策セルモ成功シ得サ⁷シモノ、如シ

西北ニ於ケル空軍空路ニ關スル動向モ亦極メテ注目スヘキモノアリ伊
寧教導總隊ノ訓練ハ夜間飛行ニ重點ヲ指向シアリト傳ヘラル、ヲ始メ

馬步芳ハ蔣介石ノ命ニヨリ玉樹附近ニ飛行場ヲ新設シツ、アリ

米支合辦西北航空路ハ八月末重慶¹蘭州間ノ定期飛行ヲ開始シ「タリム」
盆地ヲ通スル新中印空路ノ各地ハ八月十九日ヨリ氣象通報ヲ開始セリ

以上ノ外蘭州ニハ六月一七月重慶遷都準備ト稱スル新施設ノ出現ヲ見
 七月三十日ニハ重慶ト迪化間ノ無線電話開通スル等重慶ノ西北中央化
 工作ハ極メテ注目スヘキ進展ヲ見ツ、アリ
 蔣介石ハ七月末日米蘇兩大使ヲ招致シ孔祥熙以下ノ要人ヲ加ヘ米蘇合
 作ニ依ル西北軍事建設案ニ關シ討議アリ
 玉門油田ハ米國「スタンダードオイル」ニ依リ開發セラレアルモノ、
 如シ

46TT

戦
月
資
料
二

作
戦
討
伐
ノ
状
況

作戰討伐ノ狀況

一、仁集團ノ伏襲レ號兩作戰

仁集團ハ八月初頭^{11 D}ノ兵變ニ依リ身ヲ以テ難ヲ逃レツ、アル于學忠ヲ追及シ八月中旬内田、奥村兩兵團ヲ以テ莒縣東方地區ニ伏襲作戰ヲ實施シタル後更ニ十九日ヨリ兩兵團主力ヲ以テレ號作戰ヲ開始シ月末ニ亘リ臨朐、沂水道兩側地區ヲ掃蕩セリ

本作戦ニ於テ于學忠ヲ負傷セシメ高級幹部多數ヲ捕獲シ同軍ニ致命的打撃ヲ與ヘタリ

二、戊集團ノ平北作戰及カ斃作戰


戊集團ハ眞野兵團ヲ以テ七月上旬來平北共產軍第十二分區ノ掃蕩ヲ續行シ其ノ根據地ヲ殺滅シテ八月末終了セリ

又柴山兵團ヲ以テ七月末來厚和東北地區ニ於テ綏蒙游擊隊ニ對スルカ斃作戰ヲ實施シ同地一帯ヲ肅正シテ九月二日終了セリ

三、原田兵團ノ一號作戰

原田兵團ハ四月一日以降共產軍ノ執拗ナル抵抗ヲ破摧シツツ長期ニ
亘ル冀東ノ肅正ヲ繼續中ナリ
其ノ他各兵團ハ各擔任地區ニ於テ活潑ナル肅正討伐ヲ實施シアリテ
八月中ニ於ケル戦果別表ノ如シ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	<table border="1" data-bbox="619 421 938 786"><tr><td data-bbox="619 421 938 607">2</td></tr><tr><td data-bbox="619 607 938 786">1</td></tr></table>	2	1
2			
1			
分割撮影 した 理由	A3判以上のため		
<p data-bbox="272 1193 1323 1352">上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p data-bbox="389 1509 935 1576">8年6月 日</p> <p data-bbox="536 1706 831 1765">主務者又は</p> <p data-bbox="536 1872 831 1930">撮影立会者</p> <p data-bbox="906 1832 1433 1944">坂根嘉和 </p>			

考	備	我カ損害						獲品																						
		戦傷馬	戦死馬	生死不明	戦傷	戦死	馬匹	火樂	背襖	軍帽	自轉車	燃料油	軍衣袴	防毒面	鐵帽	地雷	十子磁器	電話機	無線機	槍	青龍刀	銃劍	手榴弾	洋砲	自動小銃	擧げ銃				
<p>一、本表ハ主要ナルモノノミヲ計上ス</p> <p>二、主要鹵獲品中(一)内ハ彈藥數ヲ示ス</p> <p>三、我カ損害中(一)内ハ將校數ヲ示ス</p> <p>四、北支方面ノ冀中作戰開始以降ノ分ヲ含ム</p> <p>五、「セ」號作戰ハ登、呂ヲ除キ波集國ノミヲ含ム</p>		1	1	2	1,688 (七七)	728 (五一)	1,226	1,349	1,149	1,734 (八)	1,149	7,720	1,632	2,011	1,111	2,291	1,111	3	566	2,146	3,109	5,342 (三)	4,925	3,593 (三一)	3,593 (三一)	1,213 (一七)	2,130 (三〇)	1,521 (四四)	2,263 (一七一)	
		2	10	3	308 (一五)	1,131 (七)	22	370	1,260	1,149	1,011	20	1,011	47	1,011	47	1,011	1	1	1	1	1	1	830	97	1,130 (一七)	1,130 (一七)	2,130 (三〇)	1,130 (一七)	2,130 (一七)
		8	11	1	1,088 (六)	888 (五)	5	11	11	10	11	5	11	3	11	11	160	4	2	23	115	173	1,762	72	1,130 (一七)	1,130 (一七)	2,130 (三〇)	1,130 (一七)	2,130 (一七)	
					67 (三)	67 (三)																								
					228 (一九)	228 (一九)																								
					1,011 (六五)	1,011 (六五)																								
					1,332 (一七七)	1,332 (一七七)																								

支那派遣道軍綜合戰果（昭和十七年六月）

昭和十七年七月
支那派遣道軍參謀部第二課

品名	種別				合計
	北方	中支	南方	計	
交戰回數	一、三六四	三三六	一、二三三	二、九三三	
交戰兵器	二五、二一六	五、三〇〇	五、一六七	三七、〇〇〇	
遺棄屍體	三、五三一	二、三二〇	三、五七一	三、七八九	
俘虜	一、四九三	三三〇	六二一	一、五五九	
野山砲	三（三六五）	一	一	三（三六五）	
迫撃砲	一八七（三三二六）	一（四五）	一（一〇）	一八九（三三六五）	
重機	六九（一八四六四）	二（四九〇〇）	二（二八一）	七三（一八四六四）	
輕機	三九八（三二二二八）	一一	二五（七〇六二）	四三四（三二二二八）	
小銃	一七一四三（五六〇〇〇）	三九四（一四二〇〇）	九二〇（三二四〇九）	一八九四二（五六〇〇〇）	
拳銃	三四七一（六〇五二）	三一（四九〇）	八六（七二八）	三四八〇（六〇五二）	
擲彈筒	九〇（二六二）	二（一〇）	二（一〇）	九四（二八二）	
擲彈銃	三五九（三一九四）	一一（一七）	二（一三〇）	三六二（三一九四）	
自動小銃	四、九二五	一	三	四、九二八	
洋砲	五、三四二	八三〇	一、七六三	五、六七二	
手榴彈	三、一〇九	九七	一、七三	三、四九一	
銃劍	二、一四六	一一	一、一五九	三、三二七	
青龍刀	五、六六	一	二	五、八九	
槍	三	一	二	三六	
無線機	一一一	二	四	一一七	
電話機	二、二九一	四七	一、六〇	二、六二九	
圖形器具	二〇一一	一〇	三	二〇一四	
地雷	一、六三二	一	一	一、六三三	
鐵箱	一、七二〇	一	一	一、七二一	
防毒面	一、七二〇	一	一	一、七二一	
軍衣袴	一、七二〇	一	一	一、七二一	
燃料油	一、七二〇	一	一	一、七二一	

1203

方軍戰時月報資料別冊

主要討伐狀況一覽表（八月分）

昭和十七年九月二十日
甲 集 団 參 謀 部

1204

戊 集 團

柴 山 部 隊

7	3	日		
平魯警備隊	佐久間隊	部		
(威遠堡西北方 前 窩 子 二〇軒)	(威遠堡西北方 大 狼 窩 一〇軒)	隊 名		
		交 戰 場 所		
		敵 兵 力		
二〇〇	一五〇	屍 遺		
一三	七	虜 捕		
一三		損 害		
馬 小 匹 銃	小 銃	主 要 鹵 獲 品		
八 二	三			
	一	死 戰		
		傷 負		
一		我 損 害		

(1)

25	13-16	11	7
水阜村警備隊		南溝警備隊	欄車鎮警備隊
(沁縣東南方) 金村	治安地區内 別扶檢舉	(沁縣北方三五村) 里庄	(澤州南方一五村) 拂堂街
八〇〇		五〇	五〇
一〇	六三	一〇	八
	二〇		一
小銃 二	小銃 一四		
四	九(一)		

乙 集 團
井 關 隊

長野部隊

12	8	2	1
四交村進駐隊	沁水警備隊	望嶮村進駐部隊	皆藤部隊
(四交村西北方) 王・家河	(沁水東方一五軒) 河頭村	(萬泉東北方七軒) 下村庄	(垣曲西方一〇軒) 南畝村
X	六〇	五〇	X
二	二〇	一〇	一四
三		三	
小銃	小銃	輕機	小銃
九	二	一	九
	二		
	(一)		

(一)

23-30	21	19	15
草野討伐隊	安邑 張店鎮警備隊 崑把山	萬城警備隊	常樂鎮警備隊
張店鎮東方地區	上吉村 (張店鎮東方七村)	西陌村 (萬城東北方八村)	西候村 (常樂鎮西北方五村)
二〇〇	X	X	X
二九	二六		二七
四		二	
小銃 一九	小銃 五	小銃 四	小銃 五
一	九		

2	中庄村分遣隊	21-27	8
	中庄村	方地區	份西警備隊
	(五築東南方四〇軒)	洪洞趙城西	府底村
	四〇〇		(汾西南方三軒)
	三三	X	一五〇
		一九八	一六
		一六七	八
小銃	九	馬小子輕 匹銃コ機	小銃
		二五八一	七
		一七(座)	
		(一)	

毛 利 部 隊

井 上 部 隊

(三)

津、田 部 隊

4	長凝鎮警備隊	(高坪村 榆次東 方二三 方三南 方三南)	五〇	六	七	小銃	五	三	
X	同 右	(嵐縣東 北方三 八籽)	五〇〇	一七	三	小銃	三		二
8-9	石家庄警備隊	(嵐縣東 北方三 三籽)	八〇〇	一三	一			四	三
8	台懷鎮警備隊	(新台懷 鎮東南 方庄 二〇籽)	五〇	一六	一三	小銃	二	一	一(一)

汾西支隊

8	5
郭庄村警備隊	澤堂村警備隊
(郭庄村西北方七軒)	新
小張堡	絳
x	150
九	20
三	10
拳小輕	
銃銃機	
四四一	
一	

21	11
酒井部隊	太原警備隊
(忻縣南方)	南庄村
藏孤台	(大谷東方二四軒)
150	30
15	6
1	6
小	小
銃	銃
五	九
二	

(四)

仁集園

井出部隊

27	棚田部隊	重田部隊	28	同右	5	豊田討伐隊
(温縣西北方六軒)	西林肇		(費縣南方二五軒)	石河	(膝縣東北方二五軒)	上下戸租
三〇〇			一〇〇〇		七〇〇	
四三			二五〇		一四七	
			二六		三〇	
小銃			小銃機		小銃機	
四			七二		七〇	
三			三三			
三			三六		二	

柳川部隊

26-31	27	25/6 - 1/9	24	5
長島討伐隊	張家莊駐屯隊		聊城駐屯隊	田中隊
徂徠山東方地區	(新泰西南方二四村) 平嶺莊	章邱周邊地區	(東昌東南方二村) 劉家營	(陽穀東方一五村) 郭莊
400	200	(綜合) X	1000	4000
177		206	13	
39		485	8	
小銃		迫撃砲	小銃	
銃		擲彈筒	銃	
三五		二四八五	四	
	(五)			(三)
(六)	三	七		四

(五)

秋 山 部 隊

29	25	17-28	18
段家駐屯隊	蒲台駐屯隊	主 (四大)	中村討伐隊
(樂陵北々西二一軒) 張庫吏	北 渠 頭 利津東北方三軒	武定周邊地區	劉家屋 (濱縣北方)
一〇〇	一五〇	X	一〇〇
二五	三五	二五	一八
四	一	四	
自 小 轉 銃 車 銃	拳 小 銃 銃	小 銃	小 銃
三 九	一 三 八 三	二〇	四
	一		
	八	一	(一)

直轄兵團
原田部隊

28	16	6	2
景和鎮駐屯隊	鄭州鎮駐屯隊	竹内公部隊	景和鎮駐屯隊
大 （景和鎮西南方一 一軒） 屯	石 （鄭州鎮東方五 一軒） 屯	遵 （景和鎮西北一四 一軒） 廟	崖 （景和鎮南方一 二軒） 庄
五〇一八	一五〇二五	四〇〇〇〇	四〇〇一三
九小銃	小銃	六 無線 小子 エツ 銃コ	三小銃
九	五	五〇二一	六
	一	五	
		六	

3 3 3	3	2	1
各部 (池ノ上) 隊	柏木部 隊	龍店銀警備隊	柏木部 隊
防衛地區内	(官庄、辛店、 南皮東南方二三 軒)	(馬家坊、 龍店銀東南方)	(年落、 南皮東北方八 軒)
x	三〇〇	一〇〇	一五〇
二〇	四六	二	三
八〇	一四		
自拳小 轉銃銃 車銃銃	拳小 銃銃	小 銃	小 銃
二二 九三六	一 九	一	一 二
一	一		
二			

阿部部 隊

12	12	7	6	5
警備 官道李家庄 (池上隊)	北白庄警備隊 (池上)	大野部隊	警備 後刈後銃 (池上隊)	葛西部隊
魏家辛北 (309 449)	宋庄 (306 437)	解村	南廟頭 (311 466)	蘇義 (318 464)
100	100	5	50	100
8	17		8	10
1		20		
小銃	自動小銃 小銃	拳銃	小銃	小銃
4	1 5	1	3	2
			1	1
				1

(七)

20	19	17	17	16
加 來 隊	犬 平 部 隊	酒 井 隊	柏 木 部 隊	奈 良 部 隊
(趙 連鐵西方八籽)庄	(320 1407) 路家庄	(三十五里舖 牛驥店東北方八籽)	(劉 連鐵西北方八籽)庄	(張 影官)
三〇〇	X	二三一	X	二〇〇
五〇		一七	六	八
二	一三	五	六	
小 銃	自動小銃	拳 銃	小 銃	
五	一	二	五	

林 部 隊		27	26
3	2	西岡隊	小除郭警備隊
三河鎮駐屯隊 (吉田)	影岡 (白瀧)	(魏准鎮西南方一六 秆)庄	(庄准鎮東南方七 秆)頭
(北三河鎮東北方六 秆)樂	(郡邊渡口南方九 秆)庄	九〇	三〇
一五〇	一〇〇	一三	一三
八	七	小銃	小銃
小銃	小銃	九	五七
三	五	一	一
一	三		

10	8	8	8	3
横山 (白瀧)隊	齊藤 (吉田)隊	向井 (白瀧)隊	新田 (白瀧)隊	大丸 (小松崎)隊
下 (羅壽西北方九 郡) 籽	册 (沙河西南二九 井) 籽	尹 (滿城東南方七 庄) 籽	東 (新樂東々南方一 里) 二籽	東 (鷄澤西南方五 柳) 籽
六〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇
一一	一三	一五	一〇	一〇
	五	一一		三
小銃	小銃	拳銃 小銃	小銃	小銃
五	五	四 五	六	六
一				
一				

12	11	11	10	10
河 松 原 本 (小松崎) 部 隊	末山前 森本川 (白瀧) 隊	藤 本 (白瀧) 隊	加柴後 藤田澤 (吉田) 隊	— ノ (白瀧) 隊
中北集 (大名東南) 方三〇〇 小磯領 (大名東北) 方一八〇	小史各庄西南方一務 (一秆)	小井隆北方一二 寨 (一秆)	北鉦鹿東々北方二庄 (五秆)	茂山 (安國南方二〇〇 衛) (一秆)
二〇	五〇 一一	一五〇 八	三〇〇 三六	三〇〇 一五
小銃	拳銃 小銃	拳銃	拳銃 小銃	小銃
八	三三	一	七五	一〇
一		一	二	五

(九)

20	14	13	13	13
原 子 (吉田)隊	石 澤 部 隊	山 口 部 (吉田)隊	松 岡 (白瀧)隊	前秋河 田川手 (白瀧)隊
袁 (沙河西方二八杆)庄	西 (每極東北方二〇 内)堡	古 (威縣西南方二二 杆)營	泥 (金坡嶺北方二杆) 瓦舖	孫各庄(徐水西北) 方一九杆 南城(戶木東北方 二杆)
一〇〇 三	四〇〇 九	二〇 二	七〇 七	三〇〇 二〇〇 一三
小 銃	小 銃	小 銃	小 銃	小 銃
九	七 一	三 一	三 一 三	一 二 一

24	24	23	22	21
早川 (吉田)隊	井上 (白瀧)隊	服金上 部谷田 (白瀧)隊	進藤 (白瀧)隊	眞柄 (小松崎)隊
東石 (速塚集西方三)莊	小中 (安國東方六)村	故郡 (行唐北々東一二)方	南七 (平山北方七)級	陳 (韓村集西南三)庄
三〇〇	二〇	五〇〇	五〇〇	三〇
一七	八	三三	二〇	七
				一
	小銃	銃 小 劍 銃	小銃	小銃
	四	八 八	一三	三
一			一	
一	一		三	

(一〇)

31	29	28	25
小川部 (白瀧隊)	田中 (白瀧隊)	住吉 (吉田隊)	山下 小田庄分遣隊 (吉田)
(中) 滿城東南方一二 韓	(西) 定縣東南方一 謙	(王) 隆平南々西五 庄	(在) 小田庄西方四 家
六〇	二〇	八	一五〇
二〇	九	八	二七
二	二		一
輕小銃機 自動小銃	小銃	小銃	小銃
二八二	七	三	三

田 中 部 隊

13	7
張各莊警備隊	上島討伐隊
(周 ○張各莊東方一 村)	(營 ○蕪州西北方九 村)
三〇	八〇
六	一三
一	三
小銃	拳銃 小銃
一	八 八
一	

9.

1225

重要討伐状況一覽表(其四)

四部

陸軍部月報資料部

三三三

昭和10.9.12
午前
陸軍部

陸軍部
受領
17.10.12
鐵道部

陸軍部
17.9.16
陸軍部

甲集団參謀部

陸軍

1226

軍事極秘
九軍臨時月報資料

取 時 月 報 資 料 (八月分)

- 一 軍營面ノ敵情
- 二 作戦討伐ノ状況
- 三 治安概況要圖(別添)

昭和十七年九月二十五日
甲 集 團 參 謀 部



B1
21
1922
22

1227

戦
月
資
料
一

軍
當
面
ノ
敵
情

目次

第一	第二	第三	第四	第五
全	蔣	共	國	西
般	系	産	共	北
概	軍	軍	關	狀
要	ノ	ノ	係	況
	狀	狀		
	況	況		

敵情

第一 全般概要

重慶一般ノ動向ハ世界戦局ニ於ケル聯合國ノ趨勢ヲ反映シテ低調ナリ中支ニ於ケルセ號作戰當面ノ敵軍動向低調ナルノミナラス各戰區各方面ニ於テ軍事動向ノ認ムヘキモノナシ

七月中稍活潑ニ航空激撃ヲ發動シアリシ在支米空軍モ七月末ヨリ八月初頭ニ亘ル我航空擊滅戦後ハ西南奧地ニ遁入シテ八月中僅カニ廣東星仔ニ各一回神系戰的來襲ヲナラシタルニ過キス

重慶ハ國內外ノ戰況極メテ緊張シアルト國際情勢冷靜ニ注視ヲ要ストノ理由ニ依リ十中全會ヲ秋末或ハ冬初ニ延期セルカ國內外ノ戰況トハ中支方面ニ於ケルセ號作戰及獨蘇戰ノ異常ナル發展ヲ指シ國際情勢トハ日蘇ノ衝突印度問題ノ動向第二戰線ノ成否等ニシテ重慶ノ戰爭指導ノ他力依存性ヲ物語ルモノナルヘシ

而シテ重慶ハ日蘇問題ニ關シテハ專ラ其ノ衝突必至ヲ希望的ニ豫測シ印

此問題ニ關シテハ英印兩者ノ間ニ立チテ極メテ困難ナル立場ヲ糊塗セントス
 ト努メ第二戰線問題ニ關シテハ歐洲第三戰線ニ反對セサルモ太平洋或ハ
 支那戰區ノ重要性ヲ強調シ援蔣強化ノ要求ニ之努メアリ
 前月來重慶ノ最モ顯著ナル動向ハ西北問題ニシテ八月申蔣介石ハ前後二
 回ニ亘リ西北ニ飛行シ自ラ其ノ處理ニ當ルト共ニ白崇禧張維鸞等要人
 ヲ逐次派遣シ西北問題ノ進展ニ努メツ、アリ
 重慶ノ西北強化ニ伴ヒ八月第十戰區ヲ再建セルモノ、如シ
 共產黨軍ハ積極的ニハ我華北建設時ニ中國側諜組織軍隊ヲ破壊シ消極的
 ニハ對蘇戰發動ノ危險性アル日本軍ヲ牽制シ且愈困難化スル自黨自軍ノ
 窮狀ヲ打破セントシ七、七紀念日以降二ヶ月間政治攻勢ヲ強力ニ發動セ
 リ其ノ手段ハ專ラ思想宣傳ニ依リ我軍民ニ反戰宣傳ヲ行ヒ中國軍官民ニ
 對シテハ抗日意識ヲ扶植シ之ヲ爭取セントスルモノニシテ八月中共產黨
 軍ノ宣傳ハ極メテ活潑化シ我軍民ニ對スル各種反戰壓戰宣傳ヲ始メ世界
 戰況ヲ歪曲シテ樞軸陣營ノ必敗ヲ宣傳シ新中國側軍官民ノ我ニ對スル離

反テ策スルト共ニ警備力薄弱ナル新中國軍勢ノ小據點ニ謀略襲撃ヲナシ
 之ヲ拉致スルノ策ニ出テ月中十數件ノ被害ヲ見ルニ致レリ
 其關係ハ米蔭ノ斡旋ニ依リ整調努力ヲ拂ハレ暫定的妥協状態ニ達シアル
 モノ、如シ
 然レ共現地相刺ハ依然執拗活潑ナリ

第二 蔣 系 軍 ノ 状 況

一、第一戰區

我進攻ヲ警戒シテ河防ヲ嚴ニシツ、整訓ニ惠念シアルモノ、如ク其ノ
 動向低調ニシテ變化ナシ

二、第二戰區

我力嚴重ナル封鎖ニヨリ益々食糧難ニ陥リ征糧工作ニ惠念シアリ

三、第八戰區

第八戰區ハ第十戰區ノ再建分離ニ依リ一見其ノ兵力及戰區ノ地位ヲ著シク低下シタルカ如キモ西北「ル」トノ中央軍ニ依ル軍事の支配強化ヲ始メ重慶ノ西北開發ノ推進力タル任務ヲ担當シテ其ノ動向注視ヲ要スルモノアリ

即チ西北「ル」ト上ヨリ放逐セル回教軍ヲ以テ青海省ニ一般的勢力圏ヲ擴張スルト共ニ西北「ル」ト上ニハ逐次中央軍ヲ進駐セシメツ、其ノ勢力電ニ新疆方面ニモ伸張セントスルモノ、如シ

蒙疆方面ノ傳作蘇軍ノ動向依然消極的ナリ

四、第十戰區

五月來再建準備中ノ第十戰區ハ蔣介石ヲ長官トシ胡宗南ヲ副長官トシテ豫定ノ如ク八月成立ヲ見タルモノ、如シ

第十戰區ノ再建ハ重慶ノ西北工作ニ直接關聯ヲ有スルト共ニ我軍ノ進

五 魯 豫 戰 區

攻ヲ恐アル重慶ノ國中防備強化策ナルカ如シ

八月初頭師長常恩多病死スルヤ^{111D}ハ突如兵變ヲ起シ于學忠總部ヲ包圍

シ^{111D}ヲ四ヶ師ニ擴編スル如ク要求セリ

于學忠ハ身ヲ以テ難ヲ逃レ^{51A}ノ駐地ニ移動セントセルカ我軍ノ追及ス

ル所トナリ月末我包圍攻撃ヲ受ケテ于ハ負傷シ高級幕僚ハ捕獲セラレ

致命的損害ヲ蒙リタリ

^{111D}ノ兵變ハ^{57A}解消後ノ不穩ニ不滿ヲ有シアル同師ニ共產軍ノ使喚ノ魔

手延ドテ突發的兵變トナルルモノニシテ兵變不成功ニ終ルヤ一部ハ共

産軍ニ合流セルモ主力ハ于學忠軍ニ歸順セルモノ、如シ如斯シテ山東

蔣系軍ハ自軍ノ内紛國共相剋我軍ノ掃蕩ニ愈々衰亡ノ一途ヲ辿リツ、

アリ

六 冀 察 戰 區

變化ナシ